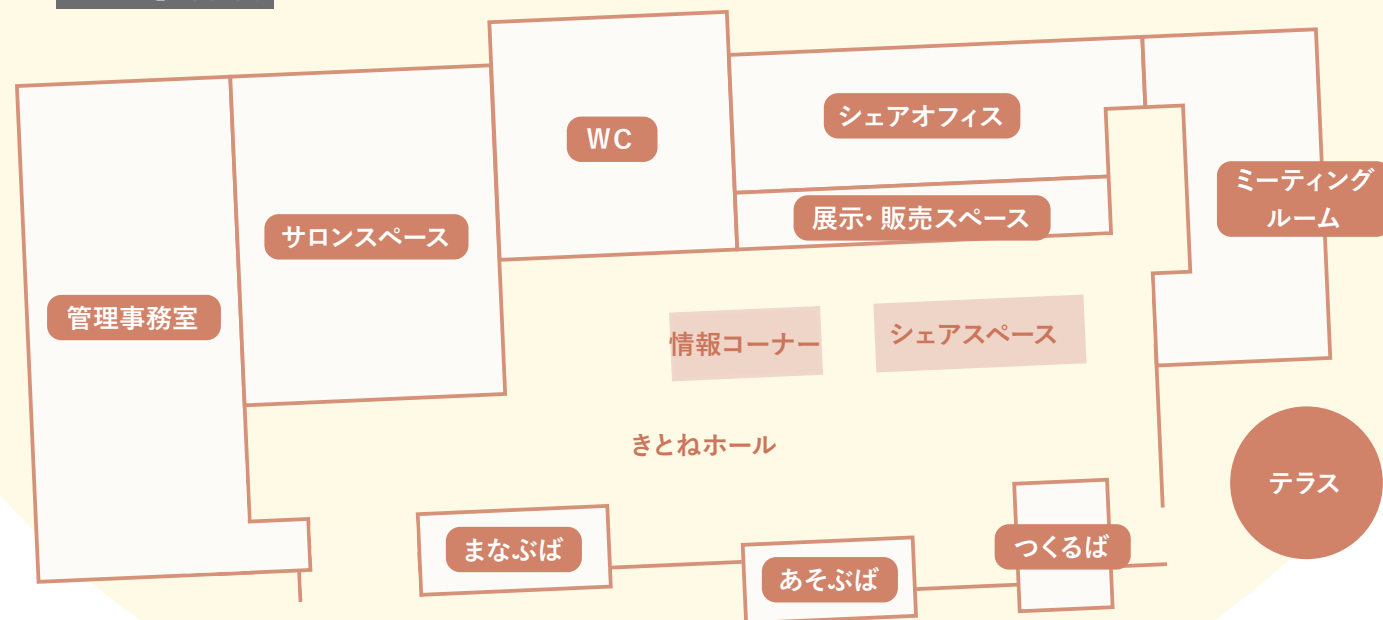


「きとね」平面図



- ① まなぶば：森林や木材に関する書籍・絵本を並べ、自由に学べる空間
- ② あそぶば：木製の玩具で遊びながら、木と触れ合える空間
- ③ つくるば：簡単な創作ができ、創意工夫や想像力を育む空間

【問合せ】
林業成長産業化推進室
電話 0241-62-6220

施設に携わる皆さんが
抱く思いをご紹介します！
PART. 1

湯田木材 株式会社

まさあき
湯田 昌昭さん（藤生）



素材生産業者として、CoC
認証を取得する湯田昌昭さんを
訪ね、藤生区の山へ。
木を伐り出し、丸太を生産する
役割―つまり、木材供給の出発点
に立つ湯田さん。「きとね」の建設
現場で使用されている認証材も、
彼らの手から伐り出されたもの。
注目を浴びる施設に携わる責任
を果たすべく、長年「木」の表情

80代の父・美光^{よしひかり}さんも
現役で活躍中！



や性格を観察してきた経験を生か
し、相棒のチェーンソーを握る。
「これだ」と自信を持てる木材を、
親子2代で製材業者へとつないで
きました。
施設のオープンにあたり、来訪
される皆さんが、一本一本味わ
いの異なる木材の魅力に触れること
で、林産業をより身近なものとし
て感じてほしい。期待を胸に、今日
も山へ向かう湯田さんの姿があり
ます。

森林・林産業振興拠点施設の名称・愛称が決定！

みなみあいづ森と木の 情報・活動ステーション

きとね

情報集約と連携強化 目指す姿を直球で表現

森の成り立ち、木材供給・製造・
商品化・販売、森への還元、これ
らの集約された情報に触れ「森と
木」ありのままの魅力を感じてい
ただき、林産業への興味・関心を
掻き立てる場としたい。
また、林産業従事者が来訪される
皆さんと関わりを持ち、意欲とやり
がいを持って活動する場。事業者
間の連携を深め、新たな可能性に
挑戦できる場としたい。
施設が目指す姿を、飾ること
なく表現した「みなみあいづ森と
木の情報・活動ステーション」を
施設名称として採用しました。

国道289号田島バイパス沿い
に建設を進める森林・林産業振興
拠点施設の内部では、迫る4月
のオープンに向け、急ピッチで
作業が続いています。
いよいよ建設工事也大詰めを
迎える中、新施設の名称・愛称が
決定しました。今号では、名称・
愛称の由来や、施設の概要、施設
に携わる皆さんが抱く思いなどを
お届けします。

誰もが覚えやすく 親しみのある愛称に

愛称となる「きとね」には、3
つの由来・イメージがあります。
一つ目は、言葉遊び。「木とね…」
と聞いたとき、何か続きがあるか
のように感じませんか。歴史や
文化、田舎の原風景、清らかな水、
人の温かさ。南会津町のモノ・
コト・ヒトが、施設でつながって
いくイメージを意識しました。
二つ目は、温かく親しみやすい
言葉であること。「ね」という言葉
一つで、優しく語りかけられている
ような、友人と楽しく会話をして
いるような感覚を覚えます。常に
親しい存在が迎えてくれるよう
な、温かみのあるイメージも盛り
込むことに。
最後に「きとね」をローマ字で
表すと「KITONE」。「KI」
+「TONE」すなわち、木の
トーン（音、肌触り、色調、香り
など）を体感し、木と過ごす時間
を大切にしたいとの願いも込
められています。
これらのイメージを基に、森林・
林産業振興拠点として、大きく
「根」を張る施設を目指します。

【写真⑥3枚】

「きとね」の構造材は、すべて
町産のSGEC認証材。環境に配慮
し、管理・生産されていることが
証明された木材を使用
SGEC認証を受けるためには、
責任ある森林管理(FM認証)、
木材の適切な加工・流通(CoC
認証)など、各工程で認証を
取得する必要がある



4月にオープンを迎える「きとね」をはじめ、町役場本庁舎、南会津地方広域市町村圏組合消防本部・消防署、町営住宅など、町産材を積極的に使用した施設が増えることは、林産業の隆盛に大きな意義があります。

しかし、各施設に使用されている木材は、きれいに仕上げられたもの。市場に出荷される木材はほんの一握りであり、それが木材のすべてではないことを、知ってほしい。

木材の「節」をご存じですか。木材の板目にある斑点を、誰もが目にしたことがあると思います。

「節」の存在に良いイメージを持たない方も多くいますが、私たちが生まれ育った豊かな自然に育まれた木が持つ「特徴・味わい」を大切にしたい。見た目や肌触りにとらわれることなく「木の本質」に触れる場として「きとね」が機能することを期待します。

また、林産業に携わる事業者が連携し、新たなビジネスなどの可能性を探ることは、すばらしいこと。ただ、事業者の視点ばかりに着目することなく、利用者の目線に立つことも大切。

木が育つ過程や、森林が生活にもたらす恩恵などを学ぶ機会を



PART. 3

有限会社 伊南川木材
五十嵐 恵二さん（台板橋）

設けることで、豊かな自然に囲まれている貴さを知り、木や森への関心を引き出す。ひいては、町に誇りを持てる人材の育成につながるのではないのでしょうか

さまざまな立場・視点で意見を出し合い、若い世代が町で活躍するきっかけを生み出せればと考えています。



人工香料を含まない天然
100%のオイルが自慢



PART. 2

関根木材工業 株式会社
関根 健裕さん（大町）

平成29年度から、林野庁による「林業成長産業化地域創出モデル事業」に町として参画。行政や民間の立場を超え、林産業を核とした地域振興の在り方について、活発に意見を交わしてきました。

モデル事業が一つの形となった「きとね」。建設にあたり、木材の分離発注が採用されたことで、素材生産業者、製材所、木工所などが、責任と役割を果たすこととなり、充実感とともに少しずつ施設の形が見え始めています。

4月に「きとね」がオープンを迎えますが、利用者の皆さんには、木材を「ありのまま」に感じ

てもらいたい。林産業界が持つ視点や考え、ルールなどはこの際一切関係なく、施設に足を踏み入れたとき、皆さんが抱いた感情やイメージを尊重します。

親子で、お年寄りの方と一緒に、散歩のコースとしてなど、多様な利用価値が生まれてほしい。また、町外からお越しいただいた方の玄関口として、地域住民の皆さんの集いの場として、高い利用率を誇る人流の拠点になれないか。

「きとね」の存在が林産業のみならず、飲食店や地元商店などへ波及していくことも期待します。施設が始点となり、点が線でつな



素材生産業者が伐り出した丸太を角材や板材へ

がつていく。「きとね」に車を止めて、まちなかを散策する人が増えていくような未来を、思い描いているところでは。

「施設を整備した」事実だけで満足することなく、充実した情報発信や、まちなか活性化に寄与するため、さまざまなアイデアを形にしていきたいと思っています。

PART. 5



株式会社 一十八日 小平 智子さん（関本）

弊社のエッセンシャルオイルは、耳慣れない言葉かもしれませんが、町の豊かな森林に自生する香木などから時間をかけて丁寧に抽出した製品です。

「きとね」では「森と木」の魅力や情報が集約されることを踏まえ、町内事業者が取り扱う

森林資源を生かした製品が、来訪者の皆さんにとって、より身近な存在になることを期待しています。

各事業者が連携したワークショップなども検討し、町での滞在時間を増やす、きっかけ作りにも貢献したいです。

PART. 4



株式会社 マストロ・ジェッペット 渡部 安衣さん（今生）

木製玩具を取り扱う弊社のコンセプトは「木を好きな人を育てる」こと。感性豊かな子どもたちが木に触れ、体験する機会を提供することで、木育の可能性が広がる場になればと、考えています。

町内外を問わず、多くの方が気軽に立ち寄り、安心して過ごせる

場所を追求する。特別なお金をかけずに足を運べる、日常生活の選択肢の一つとして「きとね」の存在を押し上げていきたい。

豊かな森林資源や、培われてきた伝統・技術を発信しながらも、世代を超えた憩いの場として活用していきたいです。



町に出生届を提出した世帯へ贈呈する木製玩具「noe」